

平成22年度 事務事業評価シート

部署名		土木課		河川港湾係		No	1	
施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)			
	13	活気にみちた往来の盛んなまちの基盤づくり	3	港湾整備の促進	2	港湾施設の整備促進		
事業名	港湾整備促進事務							
予算費目	款	8	土木費		項	4	港湾費	
	目	1	港湾管理費		細々目	1	港湾管理費	
事務区分(根拠法令)	自治事務 ()				予算種別	継続	経常	

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)		事業の内容(対象・目的・意図)		事業実施の手段・手順	
小野田港は、古くから工業港として発展し昭和35年に重要港に指定されました。船舶の大型化や貨物取扱量の増加に対応するため、昭和62年度から国直轄事業として外国貿易機能を有した港湾として整備拡充が進められてきましたが、暫定水深のまま平成15年度より事業休止となっています。小野田港の利用促進のために、老朽化した施設の改修及び航路泊地の浚渫事業が必要となっています。		港湾施設の利用促進を目的に港湾施設を整備し、地域経済の発展を図る。		1. 小野田港港湾整備費の償還金を支出する。 2. 小野田港整備事業に対して県事業負担金を支出する。 3. 小野田港の整備拡充、利用促進のため小野田港港湾設備促進協議会において、会議や研修会、視察など実施することにより会員相互の意識向上、活性化を図り開港指定を関連機関に要請する。	
活動指標			成果指標		
負担金及び償還金			小野田港の貨物取扱量		
目標値(単位)		実績値(単位)		成果指標の到達度(B/A)	
54,244千円		38,019千円		73	
目標値A(単位)		実績値B(単位)		%	
450万t		326.9万t			

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	県事業負担金	31,735	17,892,210	財(源割内合訳)	国庫支出金 ()		
	造成事業償還金	22,233	19,860,907		県支出金 ()		
	協会負担金	276	266,000		地方債 ()	13,500	12,000,000
					その他 ()	22,509	20,126,907
			一般財源 ()		18,235	5,892,210	
合計		54,244	38,019,117	合計		54,244	38,019,117
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.15	942,000				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
航路や泊地に土砂が堆積し浅くなっているため、大型船舶の入港が困難となっている。	泊地の浚渫を県に要望し、事業実施にあたり市負担金を支出する。
事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当
その他	